

平成 28 年度第 3 回印西市教育振興基本計画文化芸術編検討委員会 会議録

1. 日 時 平成 29 年 2 月 24 日（金）午前 9：30～午後 0：00 まで
2. 場 諸 印西市役所 41 会議室
3. 出席委員 板倉三郎委員（委員長）、西田裕子委員（副委員長）、竹内仁委員、
横山護委員、渡邊衛委員、松井宏委員、武藤正凱委員、榎戸洋子委員
4. 欠席委員 なし
5. 事務局 生涯学習課 飯島課長、鈴木、北林
山崎教育総務課参事
6. 傍聴者 1 人
7. 議 事 (1) 教育振興基本計画第 2 次素案について
(2) その他
8. その他 (1) 今後のスケジュールについて
9. 議事録 要点筆記

議事（1）

～事務局より（1）に関する資料を説明

委 員：前回、基本目標 3 「心に豊かさをもたらす文化の保護と振興を図る」の文言に、「芸術」を追加してほしいと提案したが反映されていない。文化芸術がテーマであるのに、文化芸術という言葉が基本目標に入っていないのはおかしいと思う。

事務局：上位計画である総合計画の基本目標の柱に「文化芸術」が入っている。重複するため、文化芸術編では省略させていただいた。

委 員：印西市は文化芸術に対する理解不足ではないか。

委員長：現在策定している計画は平成 30 年から 33 年までで、その後、平成 34 年から次の計画を策定する。総合計画を含め、文化芸術という文言は次の計画で検討することかどうか。

委 員：了解した。

委 員：リーディング施策を 3 つから 2 つにした理由を教えてください。

事務局：削除したリーディング施策 2 は、「学びフォーラム」「マイバンク」「マイレージ」などのしくみを活用しながら、横断的に計画を推進していくという内容であった。しかし、庁内検討の結果、プロジェクト 1 とプロジェクト 2 にも重複している部分があり、実効性の観点からもこの内容は既存のしくみで進めることができると判断したため、削除した。

委 員：前回の会議で、文化芸術編の施策名の「創造性を育む文化芸術活動の推進・継承」の「創造性を育む」が気になるという意見を述べた。印西市では、「創造性を育む」まで高いレベルに達しているかという懸念がある。「創造性を育む」を「心の豊かさを育む」に修正してはどうか。

事務局：「創造性を育む」の主な取り組みとして「市民の自主的な活動の支援」「子どもをは

じめとする次世代の育成」である。こうした取り組みを進め、文化芸術に携わっている皆さんで文化芸術を高めてほしいという期待感から「創造性」としている。

委員：伝統芸能に携わっているが、「創造」というのは自分のエネルギーやポテンシャルが高くないとできない。「創造性」よりもむしろ「継承」に力を入れているため、「創造性」に疑問を感じたが、これはこれで良しとしたい。

委員：もっと文化芸術への財源を増やしてほしいという意見がアンケートにもあった。財源を増やすことは難しいと思うが、限られた財源の中でも、市民が積極的に活動しているところには財源の拡大をしてほしい。

委員：印西市の文化芸術活動にかかわる団体補助金は40万である。少ない補助金で13団体の活動を活発にしてほしいというのは無理がある。この委員会の総意として補助金についても盛り込んでほしい。それが文化芸術の活性化につながる。

事務局：総合計画に財政計画を入れる事例はあるが、個別分野の計画では難しい。しかし、財源確保の記載は検討したい。

委員：施設の充実も大切である。例えば、ピアノがあればコンサートもできるが、施設にピアノを置く場所がない。そうした財源的な面も考えてほしい。また、子どもたちが合唱をすることで心が豊かになる。心を豊かにする文化芸術活動の推進を願っている。

委員長：印西市の活性化につながるので、財政に関しては考慮していただきたい。

委員：芸術文化協会の位置づけについて、補助金は出さないで勝手にやってくださいなのか、活性化のために進めて行ってほしいのか。市の考えを聞きたい。

事務局：補助金は40万円、13団体に提供している。「芸術文化協会」は、文化芸術の活性化のために、継続して活動していただきたい団体である。各団体が実績を積み上げていくことで、補助金に反映されていくと思う。市民にアピールするために、いろいろなイベントに参加していただければ、団体の活動も認識され、補助金も確保できることになる。

委員：文化芸術活動は、地域の人たちに文化を繋げていきたいという使命感で行っているはずであろう。日々の研さんがないと文化芸術も続いていかない。予算がないから文化芸術を続けることができない、というのは少し違うと感じる。

委員長：無形文化財の伝承なども費用はかかるが、あくまでも文化を地元伝えていきたいという意識がベースになっていると思う。

委員：「平成28年度（平成27年度事業対象）教育委員会の点検・評価」に、事業や施策の内容が書かれていない。また、「文化芸術活動の活性化」「地域に根差した文化芸術の活動促進」は、計画になると抽象的な表現になっている。総論に書いているような具体的な項目にできないか。

委員：各委員から、それぞれに具体的な提案をしたら良いと思う。

委員：「文化芸術の振興策について」で「常設できる場所が少ない」となっているが、「常設できる場所が少ないから増やす」などに書き直してほしい。また、「創造性を育む文化芸術活動の推進・継承」の指標が「文化ホール主催事業のうち有料公演の集客

率」「文化芸術の支援（ロビーコンサート）における集客率」だが、文化ホールは限られてしまうため、市民文化祭への参加者が増えたなどとした方がいい。

委員長：文化ホールは文化の殿堂ということで書かれているのだろうが、活動場所はいろいろある。指標に教育委員会主催の講演数などがあってもいい。

委員：市ではなく市民主催の場合はもっと多い。それが抜けている。

委員：生涯学習ガイドには公民館などの団体も入っている。団体によっては、生涯学習活動と文化芸術活動のどちらに入ってもおかしくないものもある。

委員：集客率という指標は違和感を覚えた。大切なことは集客率ではなく、文化芸術にふれる機会の拡大、市民の自主的な活動の支援、子どもをはじめとする次世代の育成などであろう。これが順調に進んでいるかどうかの評価だと思う。

委員：指標は文化ホールの稼働率で出したらどうか。

事務局：指標は努力が分かるようになってきている。事業によっては、数字が取れないということもある。そこを念頭に置いてほしい。

委員：計画に具体的な取り組みが乏しい。参考までに紹介するが、我孫子市では国際的な芸術家を招いて、野外展示などをやっている。牛久市では芸術のビエンナーレを3年ごとに行い、全国から1,400点ほどの作品が集まっている。習志野市では2013年に市制40年を記念してコンクールがスタートした。文化芸術の熟成度を見るのはこうした展覧会がもっともふさわしい。市制20周年を記念して印西市も美術展をやっていたきたい。市民文化祭を大きくしたものを公募して行えるスタイルをとれないか。検討委員会を立ち上げ、5年後、10年後に向けて計画してほしい。

委員：すべてのことに精通している人材が市にいれば応援できると思う。

委員長：計画ではインパクトのある取り組みが少ないと思う。皆さんから意見シートを出していただいて、出てきた提案を追加してほしい。

委員：コンサートのためにチェリストを探しているが、なかなか良い人材がない。

委員長：若い人たちを育てていくこと、古い文化の継承の2つが大事である。これを実現するために市と共催などをできればと思う。

委員：「平成28年度（平成27年度事業対象）教育委員会の点検・評価」に、「心に豊かさをもたらす文化の保護と振興を図る（文化・芸術）」にある6つの事業はどんな事業か。

事務局：市民文化祭の開催、芸術文化講演共催の支援、芸術文化団体運営の支援、助成金の収集、計画の検討、仏像や石像の調査、無形文化財のDVDの作成、無形文化財に対する助成、民俗資料館の資料展示、市史刊行事業などが該当する。6つの事業についての詳細は後日示す。

委員：「文化施設で子ども向けの文化芸術鑑賞会や学習機会を充実」とあるが、文化芸術だけではなく、学校でもこうした機会を増やしてほしいという要望がアンケートにもあった。学校教育の中に「学ぶ力、豊かな心、健やかな体を育む教育の推進」があるが、開催回数を挙げれば指標として具体的な評価が出せるはずだ。文化施設の前に学校を追加し「学校や文化施設で子ども向けの文化芸術鑑賞会や学習機会を充実」

としたらどうか。

委員：「文化芸術体験事業の充実」に中学校が入っていないがその理由を教えてください。

事務局：中学校では「文化芸術体験事業」は行われていないため、記載していない。

委員：千葉県ではふれあい体験授業を一昨年からやっている。琴、三味線、能楽の鑑賞と体験授業を毎年6校選定しているが、印西市でも小学校だけではなく、中学校もやるべきだ。文化ホールには、貴重な松の緞帳がある。これを有効に活用するために能楽協会では、出前講座を提案したが、実現できていない。これについても考慮してほしい。

委員：印西市でも15年前は文科省の指定校を対象に毎年、小学生が神社でお神楽をやっていた。

事務局：出前は講座良い試みだと考えている。

委員：印西市に学芸員はいるのか。

事務局：文化系2名、生涯学習課3名、交流の杜歴史資料センターに2名の学芸員がいる。また、他に、資格を持っている職員がいる可能性もある。

委員：研究に従事している学芸員はいるのか。

事務局：交流の杜歴史資料センターにいる学芸員は、市史の編纂、歴史の収集、展示や整理、研究などをやっているが、人数的に厳しいため、多少の成果しかみせられない現状だ。

委員：学芸員が活躍できる場所があると良い。

事務局：学芸員については定期的に採用してほしいという要望は出している。

委員：取り組む事業で、文化芸術の分野で著名な方の作品を市で管理するという項目を入れてほしい。現在は絵が中央公民館に飾ってあるぐらいだ。収集したものをギャラリーに展示することもできる。また、生涯学習センターの建設という構想はないのか。それがあればいろいろなことができる。

委員長：様々な意見が出されたが時間がきたので本日の議事を終了する。また、文化芸術に関しての具体的な事業を提案シートに記入し提出していただきたい。夢のある、パンチ力のある提案を期待している。

議事(2)

～事務局、委員ともに「特になし」

<その他>

～事務局よりスケジュールを説明

配布資料

- 1 印西市教育振興基本計画(第2次素案)
- 2 会議後意見シート(第2回目)
- 3 印西市教育振興基本計画に係るアンケート調査報告書(自由意見)
- 4 印西市教育振興基本計画(第2次素案)説明資料